

## 資料室だより 131

### Orlando di Lasso: Two motet cycles for matins for the dead Recent Researches in the Music of the Renaissance, LV (Ed by Peter Bergquist)

ラッソーは16世紀後半を代表する非常に多作な作曲家です。

ここにご紹介するのはラッソーの2つのモテットサイクルと題されていますがどちらも死者のための朝課にあらわれるヨブ記からの9つのレクツィオに作曲されたものです。これは教会音楽史上においても大変興味深い作品と思います。

まず、朝課というのは今は失われた典礼で、3つの夜課を含む時課です。葬儀儀式における第一の段階として死者ミサと埋葬に先立ちご遺体が家にある状態の時にご遺体を前にして唱え、歌われるものです。そしてテキストはヨブ記からとられます。義人ヨブが不条理な苦悩のなかに置かれたとき、神に向かって発せられる苦悩の言葉が死者のための典礼で一晩中歌われます。これは現代の私達には考えにくいことですが、ヨブ記を死者の典礼で朗唱するのは少なくとも11世紀からなされており1965年まで続きました。レクイエムを作曲するときにセットにしてヨブ記のテキストによるレスポンソリウムを多声に作曲することはルネサンス時代、特にスペインではよくみられます。ラッソーの同時代人も作曲をてがけていますがこのように全体を作曲するのは珍しい例です。

一つ目のサイクル *Sacrae lectiones ex Propheta Job*(ca 1560)と二つ目のサイクル *Lectiones sacrae novem, ex libris Hiob excerptae*(ca,1582)は全く同じテキストです。ラッソーは20年の間隔をあけて2回同じテキストに作曲しています。以下の通り、ヨブの深い苦悩と生きることへの厭世、死と墓穴への希求が重く歌われます。日本語訳聖書を参照にしてみてください。

- 朝課：第一夜課のレクツィオ 1 ヨブ7：16-21  
2 ヨブ10：1-7  
3 ヨブ10：8-12  
第二夜課のレクツィオ 4 ヨブ13：22-28  
5 ヨブ14：1-6  
6 ヨブ14：13-16  
第三夜課のレクツィオ 7 ヨブ17：1-3、11-15  
8 ヨブ19：20-27  
9 ヨブ10：18-22